



2002年03月20日

フォルクスワーゲン ニュービートル カップ ジャパン2002第一戦(筑波)リザルト



フォルクスワーゲン グループ ジャパン 株式会社(代表取締役社長:梅野 勉)がサポートする、輸入車初のJAF(日本自動車連盟)公認ナンバー付きワンメイク レース、“フォルクスワーゲン ニュービートル カップ ジャパン2002”(以下:NBCJ)の開幕第一戦が、3月17日(日)、晴天に恵まれた筑波サーキット(所在地:茨城県結城郡)にて開催されました。3年目を迎えるNBCJは、今年も全国の有名サーキットを転戦。年5レースが予定されています。

今年から導入された2クラス制(参加者のレース経験により初心者向けのクラブマン クラスと、上級者のエキスパート クラスが新設)によるエントラント区分によって、ドライバー自らがターゲットとするライバルが明確になるなど、レースの緊張感の高まりとあわせて、走り応え、見応え共に新たな魅力を獲得したNBCJ2002のオープニング レースとなりました。

決勝は12時12分にスタート。一周2,045kmの筑波サーキットを12ラップするレースでは、筑波特有のタイトでRのきつい第一コーナーでの駆け引きと、その後の立ち上がりでレース前半の順位が決まってしまうため、ドライバーは一瞬も気を抜く事が出来ません。使用するマシンがV・T・A(フォルクスワーゲン・トロフィー・アソシエーション)によって、極めて厳密に管理されたイコール コンディションであるために、後は確実にライバルをマークして心理的プレッシャーを与えたり、真のレーステクニックで逆転のチャンスを掴み取る事が要求されます。従って、開幕第一戦となった今回の筑波でのレースは、いつも以上に熱のこもったバトルが各コーナーで繰り広げられました。

特に、当日詰め掛けた観客の中には、熱狂的なファンで構成されるCRT New Beetle応援団(総勢約80名)が、一団となってスタンドに陣取り、チョロQのモチーフにもなった本物のニュービートル カップ カーに、旗を振りながら大きな声援を送っていました。このようにNBCJ開幕第一戦は、一層の盛り上がりを見せてきた「NR-A:ナンバー付」レースを代表するにふさわしい、参加者、観戦者が共に心からレースを楽しめる事を目的としたこのカテゴリーにおける模範的なレースになっています。

続く第二戦はCP美祢サーキット(山口県美祢市)にて、5月18日(土:予選)、19日(日:決勝)の両日開催されます。

第一戦:エキスパート クラス決勝公式結果					第一戦:クラブマン クラス決勝公式結果				
決勝	クラス/予選	セクセン	ドライバー/車名	所用時間	決勝	クラス/予選	セクセン	ドライバー/車名	所用時間
1	Ex-1	55	坂本祐也:Team DUO Beetle	14 42.667	1	CI-1	7	伊藤与志雄:ビートル	15 02.843
2	Ex-2	99	壺林貴也:CRT New Beetle	14 44.091	2	CI-2	00	Martin Biswurm:Beetle	15 11.932
3	Ex-3	33	宮本 新:フォルクスワーゲン広島ビートル	14 53.099	3	CI-4	50	北山 浩:MTO BEETLE	15 14.518
4	Ex-5	45	山口倭生:DUO群馬中央ビートル	14 56.403	4	CI-5	37	金子 誉:浦安R.Tビートル	15 15.689
5	Ex-7	6	藤島敏也:F-Road New Beetle	14 58.620	5	CI-3	67	小山田 博史:O Zcaffe Beetle	15 24.598
6	Ex-6	4	又多ムツロウ:フォルクスワーゲン金沢	15 00.121	6	CI-7	11	平畑徹幸:ビートル	15 54.601